

会 議 録

会議の名称及び会議の回	第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 スポーツ部会
開催日時	令和5年6月19日（月） 午後7時00分～8時45分
開催場所	飯田市役所3階 C311-313 会議室
出席委員氏名	別紙名簿
欠席委員氏名	なし
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	伊藤生涯学習・スポーツ課長、スポーツ振興 氏原係長、松原主事、北村主事、賜部活動地域移行支援コーディネーター
会議の概要	以下のとおり

1 開会 （進行：生涯学習・スポーツ課 氏原係長）

2 挨拶 （牧原部会長）

第1回の協議会の折には、皆さんの経験から生まれてくる貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。本日の部会でも皆様方からのご協力により、協議会の目的にそって協議を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 報告事項 （事務局）

- ・第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会の会議録について

4 全体協議

- ・飯田市の理念、目指す生徒についての説明に対する質疑

（委員）部活動の地域移行という言葉で話が進んでいるので、部活動をそのまま地域に移行するのではないと言われてもその目的がなかなか理解されない。部活動の意義といわれるとこれまでのイメージから部活動から離れられない。これまでの形では存続できないから地域にもっていかって行われてもやはり部活動になってしまう。どこに行っても部活動という言葉が使われる。自分たちも自分の経験してきた部活動からでしか語れないので、そのイメージから離れられない。それ以外の表現するものがないので仕方がないかもしれないが、そのあたりのことも考えていきたい。

（事務局）地域移行の言葉は、事務局でも悩んでいる。これまでの流れでいくと一般的には、この言葉を使った方がイメージしやすいということがあるので使ってきた。6月の議会においてお二人の議員さんからこのことについてご質問があったが、この時に私どもが使った言葉は「地域連携・地域クラブへの移行」。「部活動の地域移行」というと、学校の先生の手を離れて地域の方をお願いしますという誤解をまねきかねない。教育委員会においても言葉の使い分けをしていかなければいけないと考えている。当面、地域連携というところについては、まだまだ平日の学校部活動は残りますので、地域との連携を深めながら進めていきたいと考えている。この協議会でもこうしたことをご理解いただきながら協議を進めていきたい。

5 グループ協議

（1）グループ1

① 課題1 活動の場に係ること

【長期的に考えていくこと】

- ・地域による違いをどうするの？移動の問題、場所の確保等

- ・地域クラブの持続可能性として、剣道は、クラブで大人から子供までが一緒になって練習をしている。異年齢での交流が武道などの個人種目では既にできている。そこで学んだ子が大人になって就職して、指導者として地域クラブでまた指導に携わるという循環型で持続出来ていくとよい。
- ・生徒が自分のやりたいものをやりたい場所でできる事が理想。小学生は高森の子が飯田に来て練習に来たりしている。中学生からは学区に縛られている。なので、学校区ということを考えているのは、視野が狭いような気がする。飯田市という大きな地域で考えていく必要がある。
- ・中体連に代わる大会を飯田市で企画・運営するのはどうだろうか。中体連では学校で1チームしか出ることができず、子どもも試合に出られること出ることができない子が出てきてしまう。既存の中体連から脱却するためには、より魅力的なものが必要なため、飯田市で大会を企画して、中体連に参加するよりも飯田市大会に出たほうが良いという形にできたらよい。
- ・全市型はとても魅力的だが、全市型というチームで大会に出ることができないのが課題である。

② 課題2 指導者に係ること

【すぐにできること】

- ・部活動の地域連携について共通理念を理解した仲間を増やしていく。

【長期的に考えていくこと】

- ・予算財源の確保（講師の謝礼等）
- ・一旦は、中学生で競技を本気でやりたい子はクラブチームに、そこまでで良い子は部活動でやるという形で住み分けができるとよい。

③ 課題3 生徒・保護者に係ること

【すぐにできること】

- ・部活動の地域連携について共通理念を理解した仲間を増やしていく。
- ・部活動の地域連携は、先生のためと考えている方がまだ多いので、学校単位で保護者への説明を丁寧にしていかないといけない。

(2) グループ2

① 課題1 活動の場に係ること

【すぐにできること】

- ・全市型競技別スポーツスクールという素晴らしい土台があるのだから、これをもっと PR して参加者を増やしていく。

【長期的に考えていくこと】

- ・全市型の競技種目を増やして、中学生の選択肢を増やしていく。
- ・全市型をオールシーズン実施し全ての時期でスポーツに親しむことができるようにする。
- ・全市型の内容・活動場所等をブラッシュアップしていく。全市型の精度が高まれば、地域移行の問題点もすべて解決するのではないか。全市型の「体験型」はその競技を経験する場、「競技力向上」は+α実技を学びたい子のための場、それに加えてより勝負にこだわる場も作れば、全市型でチームを作り大会に出場するということもできるのではないか。
- ・各競技によって拠点校を作り、生徒の活動の場を集約する。生徒数も減り、スポーツ部活動への加入率も減少する中で、各中学校区にたくさんの社体があるため、生徒の取り合いになっている。大規模校は十分成り立っているが、小規模校は大会に出ることができるとも不透明な状態である。
- ・個人種目については何とか実施できるが、団体種目の実施は難しい。
- ・種目によって拠点校を決めて、実施しなければ、中途半端な状態が続いてしまう。

② 課題2 指導者に係ること

【すぐにできること】

- ・指導者の心得6ヶ条を全ての指導者に周知徹底する。勝利至上主義となっている指導者がまだ多くいるのでそこを改善していく。

【長期的に考えていくこと】

- ・市が講習会を行い、指導者を「認定」する形にし、認定のない指導者は指導できない形にしていく。質の向上を目指す。飯田市で指導者の人材バンク制度を確立する。

③ 課題3 生徒・保護者に係ること

【すぐにできること】

- ・ジュニア期は、勝負にこだわるのではなく、楽しむ・育成・体験を重視するということを、生徒、保護者にも伝え、意識を変えていく。「地域移行」についての正しい意味を保護者に伝えていく。

【長期的に考えていくこと】

- ・現状では地域のクラブ活動が部活動の延長となっており、部活動で時間が足りない子が地域で同じ競技をしている状況となっている。→その為他校の生徒が入る余地のないクラブチームも多々ある。(例：合同のバスケットボールチームがあるが、ほとんどが一つの中学校になっているので、もう一つの中学校の生徒は続けられない状況がある。)
- ・部活動の延長となっているため、楽しみたい子たちが集まっているクラブとの差が大きく開いており、練習試合をしても、試合になるレベルではない。(バスケットボール)
- ・地域クラブの指導者も、中学生については「中体連」で勝つことを目指して指導している。中体連が無くならない限りこの状態は改善しないのではないかな。
- ・部活動は廃止せず、部活動ではこの種目、地域クラブではこの種目という形ですみ分けてはどうか。全体を通して 生徒が自ら選び活動を行う仕組みを作っていかなければならない。

(3) グループ3

① 課題1 活動の場に係ること →活動の場を広げるための整備

【すぐにできること】

- ・現在の活動に無理なく入れる体制づくりとして、生徒のニーズと受入れ団体とのマッチングができればよい。そのための下記の点の現状把握が必要である。
- ・各クラブの活動内容（目的、場所、会費、年齢層等）と中学生の受入れ可否の把握
- ・生徒のニーズの把握（競技志向、楽しみ志向、多様志向など）
- ・地域クラブ一覧表(主催者、目的、場所、頻度、指導者の有無等)作成と生徒や保護者への周知
- ・受入れ団体との目的の共有や理解促進の機会創出

【長期的に考えていくこと】

- ・現在の合同部活動や拠点校部活動を段階的に進めていく。
- ・施設（グラウンド、体育館等）については、地域クラブの増加に対して施設が不足しているため調整が必要となる。

② 課題2 指導者に係ること →指導者の確保・育成について

【すぐにできること】

- ・指導者の現在の活動状況の把握（各クラブ活動の指導者のめざしたいチーム像など）

【長期的に考えていくこと】

- ・指導者確保の為の募集（HP やチラシ）、登録制度、質の担保・向上の為の定期的な研修
- ・障がい者への理解のための指導者講習の実施（研修プログラムの中へ位置付ける）
- ・指導者のレベルについては、専門的な指導者でなくてもよい。大人が教えなくても子ども同士でルールを作るなど、緩い活動の場もあると良いのでは。

③ 課題3 生徒・保護者に係ること →目的等の共有について

【すぐにできること】

- ・飯田市が考える部活動地域移行についてのイメージや言葉の整理。地域移行の目的や意義、費用負担等への理解促進。部活動に対するイメージの改革。複数選べる雰囲気づくり。
- ・部活動の地域移行や中体連の動向等についての保護者や地域指導者への説明等

6 まとめ・全体共有

・各グループからの発表と質疑

(委員) この会に出てきている人以外の保護者とか指導者の意見はどうなっているのか。多くのスポーツの指導者はこれまでの自分の経験から考えている。私は、どうやって関わってきているのかを聞いてみたい。全員が同じにはならない。いろいろな考えがある人がいるのは当然。そうしたことも理解しながらやっていきたい。前向きでない人たちとも話しながら進めていけるとよい。いろいろな人と話すべきなんだろうなあと思う。

(事務局) 様々な現場・当事者の人の声を聴くことは大事であり、していかなければいけないこと。アンケートを取ったり、こうした場にお呼びしたりしてご意見を聞くということがある。飯田下伊那全体でアンケートを取ろうとしているのでそこ情報共有を図っていききたい。学校現場に出向いて現状や課題を把握していききたい。校長会でもアンケートをとっているの、そこから生徒のニーズはつかんでいききたい。各団体の方とも直接お話を聞いていききたいと考えている。現状はどうなのか、どんなことを目指しているクラブなのか等アンケートでは把握できない部分も聞いていききたい。

(委員) 多くの保護者は、部活動移行の根幹は共有されてない。学校が大変だから移すという認識でしかない。本来の目的を十分理解されていない。本来の目的を丁寧に説明しないと、アンケートをとっても反発的な意見しか出てこないのではないかと。教員の時間の問題もそうだが、たくさんのスポーツに触れさせるということなど、本来の目的をもっと丁寧に浸透させていくことが必要かなあと思う。私もこの会に来て初めて目的を知ることができた。団体の方々も同じではないか。

7 アドバイザーから (熊谷 南信教育事務所飯田事務所指導主事)

冒頭で「部活動の意義」という言葉が問題になったが、部活動にある「教育的意義」を残しつつ、どうやっていけばよいのかという問題として自分は捉えた。これまで学校部活動が担ってきた「教育的意義」がどうなるのか不安な部分もあるということは、どこでも悩んでいる。ある指導者研修会のなかで、部活動の意義を承知している教員の強みを地域の指導者と交流をして共有を図っていくことが大事ということがあった。研修のあり方も考えていきたい。

子どもたちの希望する活動の場をどう確保するかということと、単に部活動の場をどう確保するかという捉え方の違いは、似ているが、実は大きな差になっていってしまうのではないかと。飯田市では、部活動というだけではなく広くスポーツ活動の場をどうするかということを考えているので、この方向でいくことがよいと思う。常にこのことは確認していききたい。他地区では、部活動を動かすということだけを考えているので苦しそうだということを知る。

大会のあり方、見直しということも出ていたが、現在の方式以外にも子どもたちのニーズはあるのかもしれない。新しい考え方を取り入れていくことも考えていきたい。

飯田事務所でもスポーツ活動のあり方について検討を進めてきているが、なかなか理解の浸透ができない。保護者も入れ替わっていってしまうのでイメージの共有は難しいと痛感している。私の娘は、中学校では吹奏楽部、地域では公民館の空手をやっている。週1回か2回の活動。昨日、昇段審査に行ってきた。娘の隣は、お母さんと娘が昇段審査にチャレンジしていた。娘を連れていくうちにお母さんが一緒にやり始めたという。まさに地域移行によって多世代で楽しむ姿だと感じた。多種目で楽しむという姿でもあった。こんないい姿もあると、理念の共有を具体的な映像等で知らせていけるとよい。

8 その他・連絡 (氏原係長)

9 閉会 (氏原係長)